

分科会「青森県の日本語学習支援グループの取り組み - 困難点とその克服、これから -」 報告

分科会Ⅱでは、青森県内4団体の日本語学習支援グループの取り組みを説明してもらった。聴衆からは、以下のような質問があった。

- 1) 県内の各日本語学習支援グループにおけるここ10年の学習者及び教師の数の増減傾向について
- 2) 県内の日本語学習支援グループには、今回のような情報交換の機会は十分あるのか
- 3) 県内のグループのネットワーク化・連携を推進する役割を期待し、国際交流協会など公の機関を巻き込む方法はないか
- 4) 資金面の困難の打開方法は何か

上記のうち特に2)から4)は関連しており、質問者・回答者間だけでなく、聴衆からも有益な情報が寄せられた。例えば、青森県は歴史的な経緯や交通の未整備もあり支援グループ間のネットワーク化が進んでいないが、参加した聴衆からは、地域の支援ボランティア団体の連携が進んでいないのは青森だけではないこと、また、山形では民間団体が各地の団体のネットワーク化の中心になり、最終的に公的機関が引き継いだことが述べられた。また、文化庁の地域日本語教育への助成事業についての紹介と、その助成事業の要件を満たすために他県では複数団体が協働したという事例が述べられた。それに関連し、助成を得るためには、外国人だけでなく共生する地域住民（日本人）にも利益となるような取り組みにすべきだという声も聞かれた。

この分科会では、質疑応答が非常に活発に行われた。明確に提示された質問は上記4つであるが、多くの意見が出され、1つ1つの観点を深めることができた。参加者は、同じような活動をしている教室同士のネットワーク、行政と民間機関のネットワークなど情報を共有できるシステムや、ネットワークや情報をまとめる存在を求めていることがわかった。青森県内の学習支援団体のネットワーク化を進めるための方略が示された有益な分科会であった。

文責（司会）：青森中央学院大学 田中真寿美

青森県の日本語学習支援グループの取り組み

—困難点とその克服—

当クラブの現状

1. 設立 2001年4月

当時、青森県において、国際事業は盛んでしたが、在住外国人の方々への日本語学習支援については不十分なのが実情でした。

そのため、(財)青森県国際交流協会が長期の「日本語教授法の実践講座」を開催しました。

その講座を終了したメンバーが、同協会より委託を受けてクラブを立ち上げて以来14年になりました。

2. 活動の内容

- (1) 日本語が理解できないまま来日している方々もコミュニケーションがとれるよう、少人数のグループレッスンを行っています。
- (2) 授業はテキストを基に行い、日本文化や青森県の文化を紹介、四季折々の行事やトピックスも交えてのレッスンを取り入れることで、難しい日本語文法を学習者が楽しく学べるよう常に心がけ、日本語の学習を通し、講師、学習者ともに仲間の輪が広がるよう、各クラス合同のパーティーも年2回開催しています。
- (3) 学習者の主な国籍・職業
国籍) 中国、韓国、台湾、ベトナム、タイ、オーストラリア、アメリカ、カナダ、エルサルバドル、フィリピン
職業) 英語指導助手、ビジネス関係、日本人の配偶者及び家族、留学生
- (4) 場所) 県民福祉プラザ (青森市中央3-20-30)
時間) 毎週水曜日 18:30~20:00
期間) 前期; 4/2~7/16
後期; 9/3~12/17 3/4~3/11
料金) 1回 400円
レベル) 初級 I・II テキスト代実費 2700円 (税込み)
中級 テキスト代実費 3024円 (税込み)

「弘前日本語クラブ」について

目的：弘前市内・近郊に住む外国人の方々の日本語学習支援及び国際交流

設立：2000年11月

参加者状況：ボランティア 11人

学習者 20人 (2014/10/31)

参加資格：特別な資格・経験は特に必要ありません

※運営費として、一回につき、100円の参加費をお願いしています。

開催場所 / 弘前市民参画センター3階

開催日時 / 毎週木曜日（祝祭日は休み） 19:00～20:50

問い合わせ/興味のある方は直接会場へお越しください。

見学自由です。

(活動目的) 弘前日本語クラブは日本語を母語としない人で日本語の学習支援を受けたい「自己学習する外国人」の日本語学習をサポートするボランティア団体です。

日本に移住あるいは滞在している人達の中には日本語を話せないために生活習慣や価値観の違いにより生活に困難を感じている人もいます。

そうした人達に日常生活に必要な日本語や毎日の暮らしに必要な知識を伝えたりしています。

日本語がわからなくて困っている人のため、もっと日本語のレベルをアップさせたい人のためなどそれぞれの学習者のニーズに合わせて幅広く支援しています。

またそれぞれの国の文化などに触れつつお互いの国や社会や習慣について相互理解を深めてイベントなどを通して草の根の国際交流としても活動をしています。

* 日本語クラブを訪れた外国人の国籍は 29カ国 (2010/10/31)
(アメリカ、イギリス、フランス、ウクライナ、中国、韓国、ベトナム、
カナダ、ニュージーランド、オーストラリア、ロシア、ホンジュラス、
ドイツ、アルゼンチン、インドネシア、フィリピン、タイ、
エルサルバドル、ミャンマー、オランダ、スコットランド、ハンガリー、バン
グラデシュ、モンゴル、ラトビア、台湾、ブラジル、エジプト、マレーシ
ア、)

ボランティアとして心掛けていること

日本語を教えるボランティア活動に誠実さと寛容さは求められます。
日本語を教えるのに優秀な方であっても不誠実な人であったり、
学習者によっては学習スピードが異なります。
その意味でも寛容さが求められます。

～学習者に対して忘れてはいけないこと～

- ・ まず学習者であり、日本語教育を望んでいる人であるという事
- ・ 学習者である前に、いろいろな資質を持っている人間であるという事

① 学習者の第一の目的は日本語の学習を望んでいるという事。
学習方法やレベルは人それぞれだが、学習するために参加して
いるということ。

② 日本語の学習者は日本語レベルに関係なくいろいろな才能や
資質を持っている人間であり相手を尊重し理解しあうことが
大事であるということ。

～学習者をリラックスさせる措置～

・ 教材を学習者のレベルや、学習目的に合ったものにする。
不適切な教材は、学習者に焦りや失望感を与え、教育に対する不信や不安を抱
かせる原因になります。教材の内容は目的の達成を予感させるものにするこ
とが大切です。
・ 学習者とよい人間関係・信頼関係を保つ。
学習者との人間関係・信頼関係は学習の成否に大きな影響を与えます。
・ 過度の誤用訂正を避ける。
学習者のプライドを傷つけずに、不安を与えないように誤用を扱うことが必要
です。
これらの事に注意をしつつ、毎回楽しく活動できるように配慮しています。

日本語学習支援「青い森」

日本語学習支援「青い森」は2006年に設立されました。

設立目的は、地域社会が多文化共生社会の進展に伴い変化する中で、日本語学習支援を通して、友好且つ地域の発展に貢献する国際交流の推進に努めることや地域滞在経験のある外国人が帰国後日本と母国との友好の懸け橋として更なる国際交流発展に寄与できるように支援することです。会員（日本語サポーター）は10名、日本語講師・小学校教諭・国際交流団体代表や関係者などで構成されています。

<現在継続中の活動>

1：日本語教室「みんなで学びあう日本語教室」開催

2013年4月から毎月第3土曜日（8月を除く）

参加者全員が300円の会費を支払う。

参加者本人が学びたい課題を持って来たり、サポーターが準備した日本文化体験を一緒にしたり、またフリートークを希望する参加者には社会情勢に合った話題を提供したりするなどお互いに学びあうシステムをとっている。

2：パブリックランチ「ランチ教室」共催

2011年から毎月第4土曜日（8月・2月を除く）

日本語学習支援「青い森」としての最初の活動である、留学生と一般市民との食を通じた多文化共生活動「ごはんですよ〜！！」の理念を引き継ぐ形で開始された。調理スタッフは青森県内留学生・市民の方々・青森県内国際交流13団体による協働作業。一緒に料理を作り、共に食事をし、さらに50人の一般の方々に無料の食事を提供する。

3：国際交流情報紙「ぷらっと通信」企画団体

青森市役所と青森市内国際交流団体で構成されている「ぷらっとワールド青森」のメンバーとして、1年に4回発行の国際交流情報紙「ぷらっと通信」作成に企画の段階で参加している。

4：「ボランティアで教えたい方のための日本語文法教授法講座」開催中

第1回目は2012年9月から5回シリーズで「みんなの日本語初級Ⅰ」、第2回目は2013年1月から3回シリーズで「みんなの日本語初級Ⅰ」、今回は第3回目で、2014年9月から5回シリーズで「みんなの日本語初級Ⅰ」、2015年2月から12月までに「みんなの日本語初級Ⅱ」、実践を含める初級日本語文法講座終了予定。2016年に10周年を迎える当団体

の記念活動の一環として、受講者は2016年、ベトナムでボランティア日本語講師デビューを予定している。

5：福祉施設で働いている外国人介護研修生に対する日本語学習支援

2013年9月～

6：青森市内在住のパキスタン人女性に対する日本語学習支援

(コーディネーターとして関わる)

2014年8月～

<現在までに終了した活動>

1：青森市在住インドネシア人女性に対する日本語学習支援（基礎日本語）

2013年4月～2014年3月

2：青森市訪問中のベトナム人女性に対する日本語支援（サバイバル日本語）

2014年5月～7月

3：日本語学習による日本語学習のための発表会「日本語まつり」開催

2014年10月5日（日）

いろいろな形で日本語や日本文化を学習している青森県在住外国人の皆さんは、これまで学習の成果を発表する機会がなかった。今回は青森市公立大学国際交流ハウスを会場にして、歌の発表やスピーチ、作品展示などで自己表現ができ、さらに交流を通して絆を結ぶことができた。

最後に、「日本語まつり」のような機会を今後も続けていけるように、日本語学習者と日本語サポーターが協働で活動を進めていきたいと願っています。

日本語学習支援「青い森」代表 新山和子

1 : 「みんなで学びあう日本語教室」の形態

この教室は、導入・前半・後半の3部構成とし、導入部分の10分間で学習者のやりたいことを日本語サポーターと話し合い、前半50分は学習者の目的に合った日本語学習をする。初級文法学習希望者は「みんなの日本語初級Ⅰ」や「みんなの日本語初級Ⅱ」などのテキストを使用。フリートーク希望者は担当サポーターが準備した様々な話題について、使えるかぎりの日本語を駆使しながら会話を楽しむ。後半の50分は日本の生活や文化についての体験的学習をする。季節の話題を取り上げ、絵、実物、ジェスチャーなどで楽しみながら日本語に親しめるように工夫をしている。日本語レベルが上級の方や滞在期間が長い方には個々の経験や歴史をざっくばらんに語る空間も設けている。

2 : 「みんなで学びあう日本語教室」の参加学習者

1) さまざまな日本語習得段階の方が参加している現状

- ・生活に必要な最低限度の日本語習得の段階
- ・他人と意思疎通が可能な段階
- ・地域社会にアクセスできる段階

2) 日本語学習だけではない多様なニーズにも合わせて、以下のような共通理解のもとにボランティア活動を進めている。

- ・生活・文化の勉強
- ・友達を増やす
- ・みんなと話す（話し相手を見つける）
- ・同じ仲間と出会い、交流できる場
- ・交流機会もなく、孤独感を募らせることも多い遠隔地の方のためのケア
- ・乳幼児を抱えた学習者の受け入れと子供を遊ばせるスペースやスタッフの工夫
- ・固定的な教材と個人ごとの系統的な計画

3 : 「みんなで学びあう日本語教室」運営の問題点

この活動では、外国人の参加者が定着しないという問題点がある。様々な要因を考えてみると、

- ・毎月第3土曜日1時からの2時間だけでは、勉強することは限られている。
- ・1ヶ月に1回では間が空きすぎる。今日習ったことは、来月来た時にはもう忘れてしまっている。
- ・乳幼児を抱えた学習者は参加にためらいを感じがちである。
- ・どのようにすれば、必要な人に必要な情報を届けられるのか。

4 : 問題点の解決策

「みんなで学びあう日本語教室」に参加する外国の方々には日本語習得を目的にしている人だけではなく、長期滞在を志向する際に必要な手段としての日本語学習

を望んでいる人もいる。日本語使用環境としても日本人に囲まれて暮らしている方も多く、自然習得は期待できる。日本人の隣人との交流から日本語習得が進む可能性は高い。では、私たちはどのような支援が出来るか。多種多様な外国の方に対応するために、どのような活動が効果的なのか話し合いながら進んでいる状態である。ということで、正直なところ、解決策はまだ見つかっていない。

5：設立10周年記念活動

今年度は、「ボランティアの専門性」を高めるために9月から2016年2月までの長期に亘り、ボランティア日本語講師養成講座を開催中である。日本語サポーターは、日常会話以外にも読み書き能力の獲得や精神的なケアの面への役割は大きいと考えられるため、今後も自己研鑽に努めながら青森県在住外国の方々への支援を続けていきたいと思う。



日本語学習支援ネットワーク会議2014 in 青森

「青森県の日本語学習支援グループの取り組み—困難点とその克服、これから—」

NPO法人 みちのく国際日本語教育センター

馬場亜紀子

1) 活動報告

名称 : NPO 法人 みちのく国際日本語教育センター (MIJEC)

H6年 八戸市国際交流協会の一部として教室が開始

H15年 NPOとして独立

目的 : 在住外国人に対し日本語教育の支援を通じ、外国人の生活支援ならびに交流促進を図るとともに、国際交流にかかわる市民、行政、企業との仲介を行い地域の国際交流に寄与する。

事業内容 : ①日本語教室 (八戸市国際交流協会委託事業)

八戸市福祉公民館 毎週火曜日 18:30~20:30 年35回 5クラス開講

年間参加者 のべ100名 三沢基地軍人 配偶者 ALT 留学生 実習生 学生

文法積み上げ式で直説法で授業を進行

②外国人児童・生徒のための日本語支援事業

各小中学校 (八戸市学校教育課との協働事業) 年70回

H26年度4月~ 計7名 (市内6名 市外1名) 南部町 階上町との契約

③外国人実習生受け入れ事業のための日本語座学

H26年度3月~5月予定 インドネシアから約20名

④ボランティア講師研修会

年2回 夏 冬

⑤交流促進のためのイベントの参加、ツアーの企画、研修会の開催

(南部弁講座 市民フェスタ 桃狩り 多国籍料理会 ポットラック 年度末パーティー)

2) 困難点

●ボランティア講師の確保 (NPO 社員26名 現稼働講師数13名)

→年2回の研修会の開催

●生徒への周知と教室継続

→各市町村 (広報 新聞 チラシ) へのお知らせの徹底 教案チェック

●活動費の確保

→イオンのイエローレシートキャンペーンの参加

●講師の質向上の研修会への参加

→研修費

3) これから

●他団体との連携の強化 行政 学校 企業など

●児童支援の安定した取り組み

●進学 就職へのサポート

●活動場所の確保

国際文化交流クラブ これまでの活動について 2007年～現在に至る

(日本人・外国人と一緒に青森県民・市民として活動している)

【在住外国人支援活動】

1. 外国人能力活用事業
国際交流外国語講座
韓国語・英語・ルーマニア語・ロシア語・フランス語・
インドネシア語
国際交流人材派遣 (各公的機関、市民団体・他)
国際交流料理教室
韓国・ルーマニア・タイ・ベトナム・マレーシア他
2. 外国人生活支援事業
青森市内公的機関の情報提供他
青森市内公的機関へ同行 諸手続きなど
(例) 運転免許センターで運転試験を受ける際、
日本語サポーターで同乗 (10回目で合格)
日本語理解支援(公的機関からの手紙、郵便物他多種多様)
日本語教室(必要に合わせて個別に行う)
3. 外国人女性支援
特殊なケースに対応しましたが、常時しているわけではない
裁判所での調停で日本語サポーターとして立ち合いし約1
年間NPO 女性シェルターネットと連携し解決・自立まで支
援

【社会奉仕活動】

1. パブリックランチ運営事務局
無料食事会「楽しくおいしいランチ教室」 ほぼ月1回開催
2. チャリティーイベント開催
クリスマスチャリティーコンサート・交流会➡
青森市内養護施設へ本を寄贈
インターナショナルワークショップ➡
無料食事会「楽しくおいしいランチ教室」運営ボランティ
ア団体・みんなの応援隊ネットワークへ寄付

【国際交流会】

- おしゃべりナイト 日本語・外国語の相互理解イベント
BBQ サンセットビーチ・国際交流ハウス・他
おしゃべりラウンジ 日本語学習・情報他を提供する

みんなの応援隊ネットワークが「楽しくおいしいランチ教室」

団体・サークルの内容

- 事務局： 神山 恵美子
- 分野： 社会奉仕・国際交流
- 活動場所： 中央市民センター
- 活動日時： 毎月 第4土曜日
12:30 ~ 14:00



私たちは、ほぼ毎月1回「だってみんな家族だから！」をモットーに、国境のない無料の食事会「楽しくおいしいランチ教室」を開いております。

社会の急激な変化に伴って、地域の繋がりが希薄化し、人間にとって最も大切な「思いやり」や「支え合う気持ち」が薄れてきている現在、これらを回復するには、お腹を満たし、笑顔で語り合う団らんが必要だと考えました。

そこで2010年3月に3つの国際交流団体が協働し「みんなの応援隊ネットワーク」として、食育・団らんの社会奉仕活動を始めたのです。ボランティアの皆さんも含む100人受け入れの食堂スタイルで、誰でも参加できる気軽さから口コミで広がり、地域の高齢者を始め子育て中の若い方など参加者が増えてきました。今では、その趣旨に賛同してくださる企業や多くの方々の善意をいただき、総数13団体が緩やかに協働しています。

取材の日も青森や弘前の大学に通うベトナムやタイの留学生ボランティアの皆さん、会場付近にお住まいの高齢者、市内全域からの一般市民の方々など大勢の皆様が会場の中央市民セ



ンター調理室に集い大盛況でした。中には、「おいしかった。来月も楽しみにしている。」と、開催以来一

度も欠かさず足を運んでいる高齢者の方もいて、交流の輪は確実に広がってきています。

交流の輪は食べるだけではありません。ボランティアの皆さん同士の交流も活発で調理準備をしながら留学生と市民の方が互いに料理の作り方を教え合い笑い声が絶えません。また、食事をしながら子育て中のママさん同士が情報交換をしたりすることもあります。ある時は、手編み教室の先生が、ご自分で編んだマフラーを社会福祉に役立ててくれと寄贈して下さったり、高齢者の方が何もお礼できないからといって布巾を寄贈して下さったりするなど、この食事会を通して、参加者同士の結びつきに「笑顔あふれる家族の絆」が生まれ、私たちの願いである「思いやり」や「支え合う気持ち」が参加される皆さんの胸の内に秘められているのだと感じました。

その思いを強くしたのは、2011年4月、東日本大震災の被災地に支援物資を届けたいという願いで開いたランチ教室でした。当日、県内各地から多くの外国人や市民の方々が、会場の市民センターに溢れるほどの支援物資を抱えて来てくださったのです。それを福島と岩手の避難所に直接届けることができたとき、つくづく青森には「心の温かい人たちが溢れていると胸が熱くなりました。

私たちはこれからも分け隔てのない「支え愛・助け愛」が若い人たちに継承され、将来青森が世界一「心温まる街」に発展することを願い、この活動を継続していきたいと思っています。

モットーは
「だってみんな家族だから」
無料食事会

主催： **みんなの応援隊ネットワーク**

 どなたでも参加できます

日時：平成26年 9月27日(土)



10月25日(土)

11月29日(土)

午後12時30分～午後2時終了

場所：青森市中央市民センター

2階 料理室

青森市松原1-6-15 (棟方志功記念館近く)

定員：50人

問い合わせ：(事務局)国際文化交流クラブ 神山まで

電話：090-7660-1583

Email：potlucksmore@yahoo.co.jp

みんなの応援隊ネットワークは

企業・団体・市民有志が協働し、ボランティア活動をしています。

【野菜・果物支援】 あすなろ青果株式会社

【ボランティア協力】

国際文化交流クラブ・日本語学習支援「青い森」

国際ボランティアセンター青い森・楽楽倶楽部

弘前日本語クラブ・青森中央学院大学留学生有志

青森市国際交流ボランティア協会 AIVA・常光寺(野辺地町)・

NPO Japan Aomori Art・健康応援隊にこらっと・

エイチピースタイリング・市民・中・高・大学生有志

◎あおもり県民カレッジ単位認定のボランティア活動です



「楽しくおいしいランチ教室」

思いやり、支えあう地域社会を応援します

ワールドツアー in 社教

国際ワークショッ

世界の国はどんな習慣?
 どんな食べ物?
 今日一日だけ
 社会教育センターが
 インターナショナルに!
 専用のパスポートで
 好きな国を訪問しよう



3単位

入国受付：12：30～12：55 場所：青森県総合社会教育センター

第1部：ワークショップ 13：00～14：20

大研修室	スタジオ	屋上庭園	和室	調理実習室	工作室	大研前ホール	講師控室	EXILE
よさこいレッスン イギリスのゲーム	ゴスペル レッスン	日本庭園講座と 砂紋描き	けん玉 日本語クイズ カルタ大会 空手レッスン	ルーマニアの お菓子づくりを 学ぼう ※(定員20名)	芸術の秋 作ってみよう	世界を知る	絵本の世界 ベトナム ルーマニア	ATSUSHI の そっくりさんを さがせ!

※第3部で使用するお菓子を作ります

第2部：コンサート 14：40～15：30 大研修室

・ベリーダンス ・サルサダンス ・歌(フィリピン、ロシア、日本)

第3部：世界記録に挑戦！ 15：40～16：10 大研修室前ホール

(ルーマニア)

～ミハイさんのお菓子作り：長～い“サラム・デ・ピスクイッツィ”に挑戦しよう～



協力：国際文化交流クラブ・日本語学習支援青い森・NPO Japan Aomori Art

お申込み：あおもり県民カレッジ

TEL:017-739-0900

FAX:017-739-2570

E-MAIL: alis02@jomon.ne.jp

受講は無料ですが
 材料費がかかります

<材料費> 大人：500円※大学生以上
 子ども：300円※高校生以下
 幼児：無料(お菓子などの材料費です)